

山田みやこの活動報告

令和5年9月27日(水)

宇都宮大学ダイバーシティ社会の中の男女共同参画のフィールドワーク後の意見交換に参加

宇都宮大学の学生が県議会の一般質問を傍聴、民間企業の男女共同参画推進見学、済生会宇都宮病院の地域連携、とちぎ男女共同参画センターの事業など〔政治〕〔労働〕〔福祉〕〔行政〕から男女共同参画の視点で現地調査後、課題について解決方法について意見交換をする場面にオンラインで参加。

1) 「男らしく」「女らしく」というジェンダーバイアスが依然として残っている。

女性に家事労働が偏っている（アンペイドワーク）

両立支援制度は女性に向けた制度であり、社会の仕組みそのものがジェンダーギャップそのままである。

イクメンという言葉は男性の育児を特別視している。

固定的役割分担が仕組みや制度となっている。

〈解決にあたって〉

- ・女性だから…をやめる。
- ・決めつけを減らす（痴漢防止のポスターを女性モチーフにしない）
- ・ジェンダーバイアスにとらわれない。

↓

…らしさにとらわれず、個人の得て・不得手を補い合うことができる社会（ダイバーシティ社会）にしていく。

2) 男性の育児問題で、山形では一歳未満の子どものいる家庭では、父親・母親どちらかが育休をとっても良い。2回に分けて取ることもできる。

パートやアルバイトも育休取得可能。

育休取得は、平成11年 0.42% 平成30年6.16%

20年間で15倍にはなったが、まだ取得は少ない。

理由として 育休制度なかった 23.4%

育休取りにくい 21.8%

収入を減らしたくない 22.6%

育休をとるとどれくらい収入が減るか…

6ヶ月取った場合、正規給与の67%になってしまう

↓

〈解決にあたって〉

- ・育休を取っても100%支給に
- ・育休取得すると祝い金がもらえる
- ・社内に育児スペース設ける
- ・人生設計として貯蓄してから妊活する
- ・企業の理解が必要

3) 企業の中で男女比の偏りがある

職種により女性のみ（助産師）

女性議員の割合少ない



頑張っても解決にできないことはある。その上でどうしていくかが重要。

男女の関係の安定している環境とは

小学校では男女関係なく・意見が言える・リーダーになれる・一緒に遊べる⇒差は生まれにくい

最終的には「女性にもっと頑張れ」ではなく「男女でもっと頑張る」こと

3人から課題解決の意見を出してもらった後、意見交換を行った。

何故女性議員が少ないのか

- ・立候補時に男性より多くの壁をクリアしなければならない
- ・子育て中、身内の理解が必要
- ・議員は男性という偏見 など

※若い世代が男女共同参画について様々な分野の実像を知ること、今後の人生にとっていかに自分らしく生きる事が重要か知る機会になったと考える。